

「どんな咎でも、どんな罪でも、すべて人が犯した罪は、ひとりの証人によっては立証されない。ふたりの証人の証言、または三人の証人の証言によって、そのことは立証されなければならない。」(申命記19:15)

「二人の人がいて、一人が『私は祭司である』と言い、もう一人も『私は祭司である』と言っても、彼らは信じられない。しかし、互いに相手についてそのように証言するならば信じられる。」(ミシュナー)

○世の光である御子の証言：信頼できる三つの理由

1. 証言者の_____ (14)

※ヨハネ16:28

「わたしは父から出て、世に来ました。もう一度、わたしは世を去って父のみもとに行きます。」

※ヨハネ7:16

「そこでイエスは彼らに答えて言われた。「わたしの教えは、わたしのものではなく、わたしを遣わした方のものです。」

※ヨハネ7:28-29

「イエスは、宮で教えておられるとき、大声をあげて言われた。「あなたがたはわたしを知っており、また、わたしがどこから来たかも知っています。しかし、わたしは自分で来たものではありません。わたしを遣わした方は真実です。あなたがたは、その方を知らないのです。わたしはその方を知っています。なぜなら、わたしはその方から出たのであり、その方がわたしを遣わしたからです。」

※ヨハネ3:2

「先生。私たちは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神がともにおられるのでなければ、あなたがなさるこのようなしるしは、だれも行うことができません。」

※ヨハネ7:46

「あの人が話すように話した人は、いまだかつてありません。」

「光が光であることを、一体何によって私たちは確信できるのでしょうか。それは、光が私たちに対して果たす働き以外にありません。光が光であることは、論説やその光を構成する光線の分析によって立証されるものではありません。光が私たちを照らし、いのちを与えるときにこそ、それは私たちにとって光なのです。」(C.J. ライト)

2. 証言者の_____ (15-16)

※ヨハネ7:24

「うわべによって人をさばかないで、正しいさばきをしなさい。」

※ヨハネ3:17

「神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。」

※ヨハネ5:22, 27, 30

「また、父はだれをもさばかず、すべてのさばきを子にゆだねられました。」

「また、父はさばきを行う権を子に与えられました。子は人の子だからです。」

「わたしは、自分からは何事を行うことができません。ただ聞くとおりにさばくのです。そして、わたしのさばきは正しいのです。わたし自身の望むことを求めず、わたしを遣わした方のみこころを求めるからです。」

※ヘブル9:27

「そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、」

※ヘブル4:13

「造られたもので、神の前で隠れおおせるものは何一つなく、神の目には、すべてが裸であり、さらけ出されています。私たちはこの神に対して弁明をするのです。」

3. 証言者の_____ (17-20)

※ヨハネ5:17-18

「イエスは彼らに答えられた。「わたしの父は今に至るまで働いておられます。ですからわたしも働いているのです。」このためユダヤ人たちは、ますますイエスを殺そうとするようになった。イエスが安息日を破っておられただけでなく、ご自身を神と等しくして、神を自分の父と呼んでおられたからである。」

※ヨハネ1:18

「いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。」

※ヨハネ14:9-11

「イエスは彼に言われた。「ピリポ。こんなに長い間あなたがたといっしょにいるのに、あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください』と言うのですか。わたしが父におり、父がわたしにおられることを、あなたは信じないのですか。わたしがあなたがたに言うことばは、わたしが自分から話しているものではありません。わたしのうちにおられる父が、ご自分のわざをしておられるのです。わたしが父におり、父がわたしにおられるとわたしが言うのを信じなさい。」